

梅 檀

職業講話 JTA職員から学ぶ

九月十四日(火)にキャリア教育として、五年生を対象とした職業講話が行われました。講師はJTAのパイロットの小沢卓也さんとキャビンアテンダントの照山里奈さんです。

小沢さんは2年間、サラリーマンとして働いたが、やりたいことを仕事にしたいと考え、航空大学に入学し、パイロットの道を目指したそうです。パイロットはどんな厳しい自然環境でも「ちゃんとして当たり前」であり、「やらなければならぬ」仕事だそうです。そのために必要なことは「やりたいことをやるには、やりたいことをやらなければいけない」「社会ではあいさつをすると周りの人が助けてくれる」「勉強することは大切」と教えてくれました。子どもたちから「運転中事故が起きたら、どうするか」という鋭い質問がありました。

照山さんは竹富島に住んでいる祖父母の所へ行くため、石垣島まで飛行機に乗ったのがきっかけとな



り、キャビンアテンダントの仕事を選んだそうです。仕事に対する心構えとして「それぞれのお客様の気持ちになり、お客様に気持ちよく過ごしてもらうようアンテナを絶えず張ること」「お互い助け合ってチーム力を発揮すること」が大切だと教えていただきました。一番大変だったのは機内で急病のお客様がでたことで、チームワークで乗り越えることができたと話していました。

子どもたちは、パイロットの制服を着せてもらったり、救命胴衣の着方を習ったりしながら、とても熱心に話を聞いていました。講師の方の仕事に対する情熱を肌で感じ取っていたようでした。いつまでも、講師の回りに集まって聞いている姿が印象的でした。最後は全員に「ボーイング737」のバッチをいただきました。

帰り際、講師の方から「この子たち素直でかわいさ」「こちらがいやされた」「質問もたくさんしてくれた」「楽しかった」とうれしい言葉をたくさんいただきました。

子ども同士が寄り添って話しています。その前で先生が二人の会話に耳を澄ましています

校内研修会(授業研究会) 行われる

九月十五日(水)校内研修会(授業研究会)が行われました。今回は二年生が国語の授業を行い、職員で観察し、その後「子どもの学び姿から、教師自らが学んだこと」について話し合われました。

今回の研修会は、七月に学びの共同体のスーパーバイザー永島孝嗣先生が来校したときに提言されたことを実践したものです。

○教師も医者や弁護士のように専門家にならない
 専門家になるためには自らの実践を振り返る機会(研修)が必要である。

○毎月授業研究会を行う
 日常的に行って初めて実践力が身につく。

○教師の子どものみる力を養う
 子どもの学びが起きている姿や学びが停滞した姿、困り感のある子などをみとり、その要因を語り合い、個々の教師の授業に活かす。

このような目的で、毎月一回以上、研修会を行います。全ての子どもたちの学びを保障するため、先生たちも日々がんばっています。



協議会では先生方が子どもたちの様子について熱く語り合いました